企業名：　オルガノ

レポート名：　オルガノグループレポート 2022

1.　この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合報告書にあるように、オルガノグループは「オルガノは水で培った先端技術を駆使して 未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続ける」ことを経営理念としている。また、「付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に、事業領域と展開地域を拡大し、産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスの絶えない提供、昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業の構築」を長期経営ビジョンとして掲げている。　近年では、高度な技術を通じて、水質改善などを中心とした環境保全や温暖化防止に貢献していくことを取り組みの基本とし、サステナブルな社会の実現と企業グループとしての持続可能性を高める経営を推進している。このことから、オルガノが目指している将来の姿は価値の高い技術を用いて未来の産業、社会を支え、従業員が意欲を持って働くことのできる企業の姿であることが理解できる。

2.　この会社の現在の競争優位性が理解できるか

総合報告書に記されているオルガノの強みは 3 つある。ここでは、この 3 点をオルガノの競争優位性ではないかと考えることとする。

①総合水処理エンジニアリング企業

オルガノは超純水・純水・水道水・産業排水・下水と幅広い水処理技術を有し、多種多様な顧客に対して、幅広く事業を展開している。また、製品開発、設計、施工、販売、納入後のメンテナンスまで自社で一貫して対応が可能な体制を整えている。このため、多様な分野に対応できる技術・サービス体制が構築され、水処理に関するほぼすべての顧客にトータルな提案ができる総合水処理エンジニアリング企業となっている。ただし、これは競合他社である栗田工業や三浦工業にも当てはまるため、競争優位性とみなせると断言できない。

②分離精製のシステムとテクノロジー

オルガノの技術は「不要な成分を分離して除くこと」と「有用成分を高純度化すること」が共通している。オルガノではこれを効率よく高度に行うための最適なシステム、最新の技術を組み合わせている。分離精製・分析・製造の技術を活かし、高品質かつ安定的な処理水を提供している。70 年以上、水処理を中心に脈々と受け継がれ、既存分野に加え新たな適用分野を拡大している分離精製のシステムやテクノロジーが強みである。この点に関しては、競合他社である栗田工業は創業 74 年、三浦工業は 65 年と創業年数は同じ

程度であることがわかるが、オルガノは他社に比べ、飲食業界や医療業界に進出しているだけでなく、微細な半導体や電気回路を精澄な超純水で洗浄する必要のあるスマートフォンや液晶テレビ、パソコン、カメラなどといった電子機器にも進出している。すなわち、より広い領域に進出し、受けつがれてきた技術を活かしているため、競争優位性として理解できる。

③飽くなき水への探求

充実した設備と経験豊富な研究スタッフにより、多種多様な水処理に関する基盤技術の追求、高度な分析技術の確立、高精度な分離精製技術を開発し、絶えず「水の価値の創出」を目指し飽くなき探求を続けている。また、産業環境や地球環境も見据えた包括的なエンジニアリングの研究、開発など持続可能な社会の実現のため、さまざまな課題の解決や新たな価値創造に取り組んでいる。実際、オルガノは独自開発した膜を利用し、半導体製品の品質・ 歩留まり（良品化率）の向上に貢献する、新規開発した膜、ろ過技術と連続自動観察技術を用いることで 10nm 微粒子の分析技術を世界で初めて開発した。したがって、この点に関してはオルガノの競争優位性として理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

２で競争優位性としてあげた 3 点それぞれについて考えることとする。

①総合エンジニアリング企業

オルガノが総合エンジニアリング企業であることに関しては、上記で述べた通り、競合他社である栗田工業や三浦工業にも当てはまるため、競争優位性であるとは言い難いものの、10 年、20 年後、一度総合エンジニアリング企業としての製品開発、設計、施工、販売、納入後のメンテナンスまで自社で一貫して対応が可能な体制が確立しているため、オルガノは総合エンジニアリング企業として超純水・純水・水道水・産業排水・下水と幅広い水処理技術を有し、多種多様な顧客に対して、幅広く事業を展開し続けると考えられる。したがって、オルガノが総合エンジニアリング企業であるという競争優位性は持続性があると理解できる。

②分離精製のシステムとテクノロジー

２で述べたように、オルガノは分離精製の最適システム、最新技術を組み合わせ、処理水を提供している。また、70 年以上の受け継がれてきた技術、知識を活かした分離精製のシステムとなっている。これは、今後、企業として研究を重ねていくにつれ、より多くの知識や実績が蓄積されるほか、それをもとにした分離精製技術のさらなる向上、適用範囲のさらなる拡大も見込むことができる。したがって、オルガノの分離精製のシステムとテクノロジーという競争優位性に関しては持続性があると理解できる。

③飽くなき水への探求

オルガノは上記の通り、充実した設備と人材により水処理に関する基盤技術の追求、高度な分析技術の確立、高精度な分離精製技術を開発し、包括的なエンジニアリングの

研究、開発など持続可能な社会の実現に向けさまざまな課題の解決や新たな価値創造にも取り組んでいる。この点に関し、10 年、20 年後を考慮すると、研究が進むにつれてより高度な技術が使用可能となるほか、今後確実に必要性が増していくと考えられる持続可能な社会の実現に向けた取り組みも様々なことができるようになると考えられる。また、より多くの研究員が経験豊富となるほか、充実した設備を維持しつづければ、スタッフが研究に打ち込める最適環境を整えることができる。したがって、オルガノの飽くことなき水に関する研究という競争優位性には持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

オルガノでは図 1 に示すように、人材育成に関し、従業員のスキルアップやキャリアアップのために、社会人としての一般知識やオルガノの技術を学び、研修の後半は建設現場にて前半で習得した技術や知識を実践する新人研修、入社 1 年目の秋に改めて会社経営の全体感を把握するとともに、企業会計への理解を深めるフォローアップ研修、オルガノの基礎的技術について、技術分野毎に受講する Engineering Seminar Basic Course（ESB）、主体的なキャリア形成の意識づけを行い、自律的に成長する力を養う入社 3 年目キャリア研修・中堅キャリア研修など階層別研修や機能別研修を実施している。また、従業員の自己啓発を援助する制度として、資格取得支援制度やオルガノ大学（通信教育受講金補助制度）を導入している。

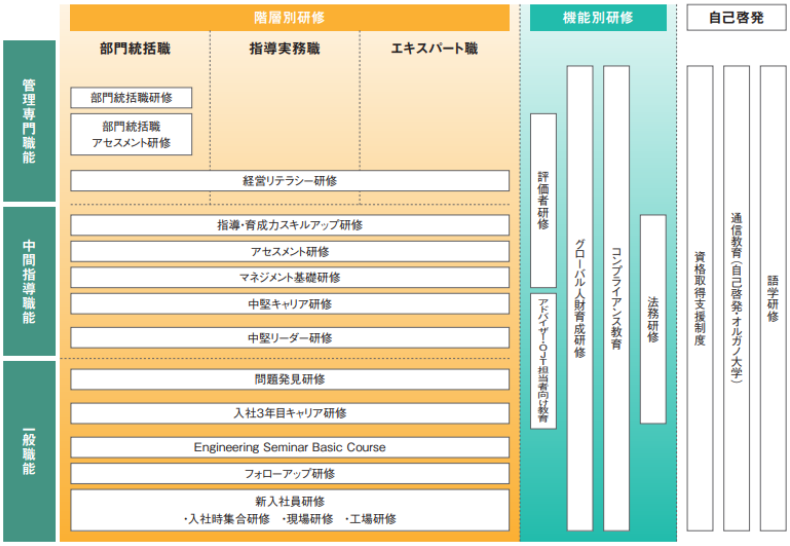

図 1　オルガノの教育体系

このことから、オルガノでは人的資本の価値向上を達成できると考える。何番界にもおよぶ充実した研修制度や支援制度により自身の成長を促すような技術の取得や経験を積むことができる。したがって、オルガノで自身の人的資本の価値向上を達成できると考える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書の良かった点としては、経営理念や経営ビジョン、近年力を入れている取り組みを示すことで、企業の目指す将来の姿が明確であること、企業の強みと考える点を３点はっきりと提示することで競争優位性がわかりやすくなっており、特に、研究に関しては、実績を具体的に示すことで、水の探求に力を入れていることに加え、実績を残していることもアピールできるため、強みとしての説得力が増している。また、オルガノのこれまでの歩みを提示することで、70 年以上の経験、知識、技術の蓄積と信用をアピールできているほか、これから重要になるであろう環境問題、サステナビリティに関して様々な面から取り組んでいる内容を載せ、そういった社会全体に関する問題にも大きな関心を寄せていることを示している点である。改善の余地としては、経営理念、経営ビジョン、近年力を入れている取り組みがすべて示されていることから、何を特に重要視しているかが見えにくい点である。また、オルガノの強みとしてあげられていた総合エンジニアリング企業である点は他の栗田工業や三浦工業にも当てはまる条件であることから、特にその中でもオルガノの強みを示すと競争優位性としての説得力が増すと考えた。分離精製のシステムとテクノロジーの関しても、企業の創業年数は他の企業ともそこまで大きく変わらないため、より広域の業界に進出していることを強みとしてアピールすることも一つの選択肢であると考えた。

６．参考文献

・オルガノグループレポート　2022　（最終閲覧日　7 月 27 日）
YhJK.pdf (irpocket.com)
・栗田工業　（最終閲覧日　7 月 27 日）
クリタグループ（栗田工業）（kurita.co.jp）
・三浦工業　（最終閲覧日　7 月 27 日）
熱・水・環境のベストパートナー｜三浦工業（miuraz.co.jp）